

2022年度年末手当、会社の低額回答に対する抗議声明

11月11日、JR東労組本部は申6号「2022年度年末手当等に関する申し入れ」の第3回交渉を開催した。会社は要求額に到底及ばない基準内賃金の2.4ヶ月+2万円を回答した。私たちJR東労組水戸地本は黒字に向けた組合員の努力に報いないこと、物価高対策に向き合わないで低額回答した経営姿勢に断固抗議する。会社回答に対して「黒字に向けて努力したのに期待はずれである」「物価が高くなり出費が増える一方だ。収入が増えないため生活が苦しい」「会社回答にがっかりした。怒りを通り越して、諦め感と会社への不信感しか抱かない」等の怒りや不満の意見が組合員はもとより未加入者から寄せられている。

組合員・社員は、赤字コロナ禍において職場から会社諸施策を担い、感染対策に取り組み黒字に向けた努力に報いない会社姿勢に対し、大きな怒りを感じている。

2022年度第2四半期決算は、3期ぶりに全ての利益が黒字に転換した。これは増収活動やコストカット等、まさに組合員・社員の努力の結晶である。しかし、第1回交渉では黒字になった組合員・社員に対する感謝の言葉は無かった。第2回交渉において、JR東労組から黒字へ転換したのは組合員・社員の努力であることを提起した際、初めて会社から御礼が述べられた始末である。会社は組合員・社員の努力を受け止めると言いつつ、回答書には「営業利益が業績予想に及ばない」「有利子負債が1兆円増加している」「先行きが不透明」等として低額回答の根拠を示している。一方、役員報酬の10%自主返納を止めたことを第2回交渉の中で明らかにしている。

経営陣の離職に対する危機感の薄さから、2021年度は約600名の若年層が退職する異常な事態である。経営陣は自らの襟を正し、人材流出に対する危機感を認識すべきである！

JR東労組本部は年末手当に対するアンケートを実施し、延べ6000件にも及ぶ意見を集約した。水戸地本でも営業統括センターの発足や組織再編、販売体制の見直し等、多くの施策に向き合ってきた労働実感の意見が集まった。また、物価が上昇し、生活が苦しいとの悲鳴が多数寄せられた。多くの要求を交渉で議論できるのは労働組合だけであり、社友会では実現することは出来ない。一方、他労組は早々に妥結し、会社による低額相場づくりに加担した。「安全・健康・ゆとり」と「働きがい」を担保するためにも、今こそJR東労組に結集すべきである。

JR東労組組合員の皆さん！

年末手当交渉を粘り強く、最後まで議論が出来ることや、労働条件など労働協約で保障されるのはJR東労組組合員だけです。今こそJR東労組の必要性を議論し、未加入者や他労組組合員へ結集を呼びかけよう！

良識ある他労組組合員の皆さん！

会社施策に対して真摯に向き合えるのはJR東労組だけです！労働協約や協定などJR発足以降、組合員の雇用と利益を守る観点で議論を積み重ねてきました。今こそJR東労組に再結集しよう！

未加入者や社友会会員の皆さん！

何も言わないことは経営姿勢を認めていることと同様です！JR東労組に結集し、現状に満足せずに共にたたかきましょう！

JR東労組水戸地本は、会社による低額回答を許さず、諦めずに最後までたたかいぬく決意である！年末手当満額獲得に向けて職場からたたかいを広範につくり出そう！

2022年11月13日
東日本旅客鉄道労働組合
水戸地方本部